

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向 関連 (九州)	良く なっている	一般小売店〔精肉〕(店員)	来客数の動き	・テレビに出演したこともあり、来客数が大幅に増えた。	
	やや良く なっている	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・土日祝共に来客数が伸びている。自家需要の化粧品が好調である。また、アクセサリ、美術、貴金属の高額品の売上が伸び、消費税増税の反動も薄れ回復が期待できる。また、レジ客数、売上増加率も横ばいからやや上昇してきた。	
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・今月の売上の見通しが前年比103.5%、3か月前比97.7%、先月比93.3%と衣料品を中心に売上が増えている。分野別にみると紳士服が前年比101%、婦人服104%、トータル衣料品106%、食品103%、家庭用品は別注や記念品が売れ117%であった。非食品の客単価は前年比105.2%、購買客数100%である。食品は物産展の客単価が前年比103%、バレンタイン用チョコレートが117%と伸びている。金額的には大したことはことないが、一般消費者の動きが若干変わってきている。また、インバウンドの中国人客が多く、前年売上の4倍であった。	
		百貨店(企画)	販売量の動き	・衣料品などのファッション関連は厳しい状況ではあるが、前年比での減少幅が縮小傾向にある。また、食料品や日用品は好調に推移してきている。	
		スーパー(経営者)	単価の動き	・全体的に景気が底上げされているので、先行きに明るい兆しが出ているようだ。	
		スーパー(店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減の影響で数値的には厳しい。	
		スーパー(店長)	販売量の動き	・売上は前年比8%ほど増加している。青果、精肉、生鮮食料品を中心に伸びている。競合店の出店もなく上向きの状況である。	
		スーパー(総務担当)	それ以外	・ここ数か月前年を下回っていた衣料品・住居用品の売上も回復傾向にあり、前年を上回って推移している。	
		コンビニ(店長)	それ以外	・株価やGDPなどが良くなっている。	
		衣料品専門店(店員)	単価の動き	・客数は減ったが、単価の高い商品が売れた。まとめ買いの客が数名あり、売上は前年比120%であった。	
		衣料品専門店(チーフ)	それ以外	・春節のツアー客で、福岡市内はクルーズ船の来航とともにかなりにぎわった。その効果が売上に現れている。	
		乗用車販売店(従業員)	単価の動き	・価格の安い軽自動車の購入が多く、利益が出ない。	
		乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・1月に販売が開始された新型車が順調に売れている。週末は来客数も多く店舗全体がにぎわった。	
		その他専門店〔コーヒー豆〕(経営者)	来客数の動き	・例年2～3月は異動シーズンとなるので、職場への進物でコーヒーを使うケースが増える。それに伴って、来店客数が増え、客単価も上がっている。	
		高級レストラン(支配人)	来客数の動き	・先月より来客数が増えた。	
		観光型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・宿泊はランタンフェスティバル開催により好調で、それに伴ってレストラン予約も順調である。宴会も昨年を上回る予約が入っている。	
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・数か月前と比べても、中国・アジア圏からの観光客が格段に増えている。	
		変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・商店街全体として景気は上向いていない。
			商店街(代表者)	販売量の動き	・毎年2月は景気が低迷する時期であるので、3か月前と比べると少し悪くなる。
			商店街(代表者)	お客様の様子	・国のインフレ政策にも関わらず、客の消費行動はデフレ方向に動いている。今月は年金が出ているので少し購買が増えたが、客は物を買わない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・例年2月は寒いので商店街の来街客数は少ない。今年はそれに加えて客の買上率が下がっている。消費がかなり停滞している状況である。	
		一般小売店〔青果〕(店長)	それ以外	・中央市場の相場は、寒さにより県外からの引き合いが増え高騰している。気温が安定して入荷量が増えると、県外の需要が低迷し相場が下落する。	

一般小売店〔鮮魚〕(店員)	それ以外	・年明けてから魚が少ない状態。入荷が多かったのは3～4日くらいで、本当に少ない。しかし、売れていないため魚価はさほど上がっていない。
一般小売店〔茶〕(販売・事務)	来客数の動き	・天候の影響もあるが客足は例年通り少ない。高齢客層が多いため、寒さで外出を控えている。一方、外出した際は、まとめ買いする傾向も見受けられる。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・来客数も減少しており、単価も落ちている。先行きの不安定感、物価上昇による買い控えが要因である。60歳以上の層にその傾向が顕著にみられる。
百貨店(経営企画担当)	販売量の動き	・一部高額品については好調に推移しているものの、衣料品、雑貨関係は依然として売上が低迷している。
百貨店(店舗事業計画部)	販売量の動き	・春節を中心とした外国人観光客による売上の伸びが大きく下支えとなった。しかし、商圏内の顧客の売上は伸びが小さく、購買傾向も大きく変わっていない。季節行事に関連したバレンタインデーや入学卒業用品の動きは堅調なものの、不要不急のファッションの動きは鈍い。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・春の新作入荷を客に案内しても、まだ必要ないのでしばらくして購入すると答える客が多い。必要なときに必要な物しか買えないと言う客が多い。
スーパー(店長)	単価の動き	・生鮮は好調に推移しているが、それ以外の食品の客単価は若干上がっているものの、総売上が苦戦している。
スーパー(店長)	来客数の動き	・食料品を中心とする必需品の売上は前年並みだが、衣料品や布団等は買い控えが続いている状況である。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・福岡地区は比較的堅調だが、北九州地区は全体的に販売量が落ちている。工場跡地への新規出店等が続いたため、過当競争となり販売量が落ちたところもある。
スーパー(業務担当)	お客様の様子	・食料品の価格強化策は一定の効果があると思われる。ただ、高単価商品を販売している専門店の不調が長引いており、トータルでは横ばい状態が続いている。
衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・セール品の残りを求める客が多い。季節を先取りした商品を買う客もいるが、所得の二極化をあらためて感じる。
衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・比較的高齢のミセス層が主力の当店において、依然として客は購買に非常に慎重である。商品を気に入ってもなかなかその場で決定しない状況である。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・昨年の2～3月は、消費税増税前の駆け込み需要があったため、前年比で見ると数字は良くない。一方、消費税増税直後からみると9～2月の流れはあまり変わらない。
住関連専門店(経営者)	来客数の動き	・今月半ばまでは来客数は少なかったが、後半増えてきた。キャンペーンの効果は2月の後半にでてきた。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕(統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は下げ基調から下げ止まりとなり、やや上げ基調となりつつある。燃料油の定量・定額購入の顧客が、満タン購入に変化しつつある。販売量は、前年比をやや上回っている。今後、仕入価格が上昇すると小売価格も上げざるを得ない。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	販売量の動き	・当社は空港のテナントに土産品を卸しているが、店舗により売上にばらつきが見られる。総体的に前年割れが続いている。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(統括者)	販売量の動き	・インバウンドが好調に推移しており、売上は大きく前年を上回る状況になっている。しかし、インバウンドが獲得できていない施設は、前年売上を確保できていない。
一般レストラン(経営者)	単価の動き	・平均客単価は変わっていないが、注文の価格帯が、安価なメニューと高価なメニューの両極端になっている。
都市型ホテル(販売担当)	単価の動き	・売上は、前年に比べると下がっているが、例年と比べ、悪くはないようだ。
都市型ホテル(副支配人)	単価の動き	・団体客は少ないが、インバウンド客の貢献により、全体的に単価が上がっている。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・春節に合わせた中国からのインバウンドの手配数が、昨年に比べ大きく伸びた。
タクシー運転手	お客様の様子	・プロ野球のキャンプなどで観光客は増えているが、自家用車、レンタカー、バス利用が多く、思ったほどタクシー利用は伸びていない。

	タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は思ったほど人出がなく売上も伸びず低調であったが、後半はやや持ち直した。
	タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に出控え、買い控えが多く、夜は客の動きがない。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・少額ではあるが追加の発注が増えた。1～2年前ではあまりなかったことで、経済が活性化してきているのではないが。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・転居シーズンに入り契約者の出入りは増えたが、売上の純増減数に大きな変化がない。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・2月は新サービスの話題などもあり、来客数は増えた。ただし、昨年と比べて週末の販売数が増えたものの、経費増を賄うまでは伸びていない。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響で、入札案件の件数自体が減っている。
	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・ゴルフの予約状況は団体旅行、会社の奨励旅行、接待ゴルフが徐々に増えつつある。客数はさほどでもないが、レストラン、ショップの利用が増え、客単価が前年比を1割以上上回っている。お金を使える業績の良い会社がこの数か月増えており、少しずつ良い方向に向かっている。
	住宅販売会社（代表）	販売量の動き	・依然として客数が増加しない。ここ最近はやがったままの横ばいである。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税に消費者も慣れてきた時期だが、食品に続き、靴やバッグ衣料品などの仕入原価が上昇している。消費者の買物は慎重な態度が目立つ。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候に左右された部分もあるが、衣料品、日用品関係の店舗で特に来客数が少なかった。
	百貨店（営業統括）	販売量の動き	・気温低下の影響はあるものの、婦人顧客の購買に対する関心は高まっていない。特に60歳以上の高齢顧客の購買が厳しい。
	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・本部の対策によりどうにか売上の前年割れは回避できているが、プラス1品買いの客が減っている。競合店ができたことも原因であるが、客数が伸び悩んでいる。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の出足が少し鈍い。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・全般的に不調だが、携帯電話の売上だけが前年並みとなっている。
	家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・昨年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減がある。前年と比較すると、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等の白物家電が影響を受けている。
	その他小売 [ショッピングセンター]（広報担当）	販売量の動き	・消費環境の回復の兆しがみられない。客数は横ばいであるが、客単価が昨年を割り、売上高が前年割れとなっている。不要不急の買物をしないという消費者の買物意識に加え、より価格の安いものをセールにあわせて買い回っていることが要因と推測される。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・飲食業は2月と8月が閑散期で、大口の客の宴会等があまりなく、少人数での客の動きがほとんどであった。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・思ったより良くならない。飲食関係は2月が1年で最も悪い月だが、昨年よりも悪い。選挙が控えているという不安材料がある。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・年末の繁忙期に比べると売上が減少傾向にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・病院通いの客がかなり減っているのに加え、夜の動きが非常に悪い。会社員が飲みに出る機会が少ないようで、歓楽街では早く閉める店が多い。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・これから春のおしゃれシーズンに向かって景気が回復するので、今後に期待できるが、2月は非常に悪い。
	美容室（店長）	お客様の様子	・2月は1年で最も暇な時期ではあるが、今月は特に売上が悪い。来客数も減少している。
	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス]（管理担当）	それ以外	・季節要因による入院等で、サービスのキャンセルや顧客減が発生している。また、介護報酬のマイナス改定が決まり、4月からは減収が見込まれる。
設計事務所（代表）	来客数の動き	・地方では景気が良くなっている様子はない。	

		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・マンションや戸建て住宅の分譲は、3か月前から来客はあるが成約率が下がってきている。物価上昇が先行き不安に影響している。
悪くなっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・平日の商店街への来客数が減っている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・印刷関係の注文はコンスタントにきているが、来客数が少ないので売上は減少している。物品販売の客が少ない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・年末から1月にかけて出費が重なっているため、かなり財布のひもが固くなっている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・毎年2月は来客も少なく売上が悪いが、昨年末以来、来客数の減少傾向に歯止めが掛からない。
		自動車備品販売店(従業員)	販売量の動き	・昨年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減が影響している。
企業動向関連 (九州)	良くなっている やや良くなっている	電気機械器具製造業(取締役)	取引先の様子	・当社同様、他社も忙しくなっているため、生産を依頼しても引き受けてくれない状況である。
		繊維工業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・他の生産工場の跡取りがおらず閉鎖されるため、その分が回ってきただけなのかもしれないが、仕事の受注は増えている。工賃も少しずつ良くなってきた。中国生産が国内に戻りつつある。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今月は商業用家具の受注が前年比で10%以上増えている。高額家具の動きも良く、輸入品について為替の影響分を価格に一部転嫁したが、動きは鈍っていない。
		金属製品製造業(事業統括)	受注価格や販売価格の動き	・年度末の受注残が前年比10%増となった。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・装置設計部門、機械部品加工部門とも受注が混み合っている状態である。先月に比べ仕事量が急に多くなった。
		輸送業(総務)	受注量や販売量の動き	・燃料価格が安くなっていることや、株価の上昇もあって荷動きは良くなっている。
		通信業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・マイナンバー制度の導入における既存ITシステムの膨大な改修作業が控えており、それに伴った受注が増加している。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・取引先の動向として、不動産の売買が商業・住宅地の人気地区において活発である。
		金融業(営業)	取引先の様子	・製造業は概して好調である。円安により、海外発注から国内協力企業へ回帰するメーカーの動きも目立つ。小売業も消費税増税後の調整が終わったようだ。
		経営コンサルタント(代表取締役)	受注量や販売量の動き	・当社の受注件数・金額が増えている。
変わらない		その他サービス業[物リース](支社長)	取引先の様子	・4月以降の設備投資案件が増加している。また、補助金を活用した老朽化設備の更新についても問い合わせ多い。
		農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年通り1~2月の売上は、12月の反動もありあまり伸びない。ただし、今月の商品引き合いは、例年と比べるとかなり強かった。特に、加工メーカー筋の引き合いは、円安で輸入物が高いことや、国内の鶏肉生産が伸びていないことが背景にある。大手ハンバーガーチェーンの賞味期限切れ使用肉の件が大きく影響しており、国産志向が高まっている。スーパーや居酒屋も例年に比べかなり引き合いが強くなり、売上は年度計画を上回る見込みである。
		農林水産業(営業)	受注価格や販売価格の動き	・商品市況は変わっていない。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・国産材料で食品を製造しているが、引き合いが多くなっている。円安と安心安全を求めた国産需要の増加が要因である。
		化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・当工場の製品は景気動向にあまり左右されない。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・定番商品の動きがあまり良くない。新商品のブランド商品が少し動いている状態である。業界全体としては、商品の荷動きが低下しているようだ。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・先月に比べると受注量がそこそこ動いている。今の状態が続くと若干良くなる。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・計画通りの量を発注してもらえないのが大きな問題である。受注量が安定してくると景気は良いが、変動が激しく、3か月前の計画がなかなか実施できない。
		その他製造業(産業廃物処理業)	受注量や販売量の動き	・通常取引量は減っているが、取引先の工場閉鎖等によるライン解体などで仕事が増えている。

	建設業（社員）	競争相手の様子	・公共工事の手持ち工事がなくなり、民間企業にも営業をしているが実績が上がらない。地方の建設業者は、公共工事への依存が高く官公庁の発注に期待するしかない状況である。早期の繰り越し工事の発注を望む。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・円安などによるコスト増に直面している企業がある。また、住宅建設は前年を下回っている。一方、労働需給の改善から雇用所得がやや増加している。百貨店、コンビニ等の売上もやや持ち直してきている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業では、建設業が工事受注増で良いようだが、消費の落ち込みで小売業等は悪いようだ。家計でみると、ガソリン価格が今のところ落ち着いているので、悪化傾向は若干和らいでいる。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・小売業など、一般消費者に直接関わる業種の売上は低迷したままである。現状は変わらない。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・通信販売や旅行の広告は前年並みの出稿量だが、前年広告出稿の多かった太陽光関連の住設メーカーの出稿がなくなった。全体の出稿量は、前年比90%に届くかどうかの状況である。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・企業対象のセミナーを企画しているが、反応が鈍く参加申込も少ない。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・例年と比較すると悪いわけではないが、昨年が消費税増税前の駆け込み需要で非常に売上が増えたため、今年は悪いという印象を持ってしまう。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村から委託される公共の建築、道路等の設計の業務は件数が少なくなっているのに加え、受注額が少なく、入札などで低価格となっている。	
	やや悪くなっている	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷物の動きが良くない。例年安定している食品関係も、今年は荷動きが少なくなっている。
		不動産業	受注量や販売量の動き	・学生の1人暮らしが減ってきている。賃貸の申込が減った。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・来年度に向けた求人が活発になってきており、求人数は前年比を上回る状況である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣登録予約のキャンセルが若干多くなっている。仕事が決まったという理由が一番多い。また、登録に来ても短い期間で仕事が決まったという人が多い。直接雇用が増えている証拠である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・年が明けて製造業の求人に動きがはじめており、それに合わせて人材派遣の求人件数も増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・有効求職者数に対する有効求人数の倍率を示す有効求人倍率が上昇を続けていることもあり、今後も新規求人数の増加が期待される。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は10～12月の3か月の総数でみると、昨年度の総数9953件に対し、今年度は1万50件と増加している。一方、新規求職者は昨年度比で524人減である。
		職業安定所（職業相談）	求人数の動き	・求職者の減少傾向は続いている。求人増加幅は大きくなり、正社員求人も増加した。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人数はわずかながら伸びている。派遣で就業を希望する人は若干減少傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	求職者数の動き	・求人数は正社員案件を含め増加傾向にある。よって人材不足の状況である。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べでは、求人件数が前年を下回って推移している。人材の採用難で、求人企業の採用手段が多様化していることが要因の1つである。同業他社の競争が激化し、求人企業の取り合いになっている。人材が集まらないので求人企業に閉塞感がある。求人企業も待遇見直しなどの対策に迫られている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・正社員雇用に向けた施策がなされていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・福岡ではアジアからの観光客の増加もあり、観光産業関連は求人が伸びているようだ。一方、建設関連は、建築資材や人件費の高騰で新築ビルなどが延期されているので求人が不調だ。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月と比較し、若干減少している。また、雇用形態においても正社員求人の割合はあまり伸びていない状況にある。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・全体的に求人数が増加していない。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・企業は2016年度卒業生対象の採用にシフトしているが、2015年度卒の求人も若干届くことがある。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年比108%で推移している。情報分野・サービス分野・福祉分野・建設分野での増加率は高い。なかでも建築分野は前年比126%で推移している。次年度向け求人も、今年度同等の引き合いを受けている。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・生命保険会社の事務機能移転につき、一部の求人数は増えているものの、その他の業界での活発な採用の動きはない。
悪くなっている	-	-	-